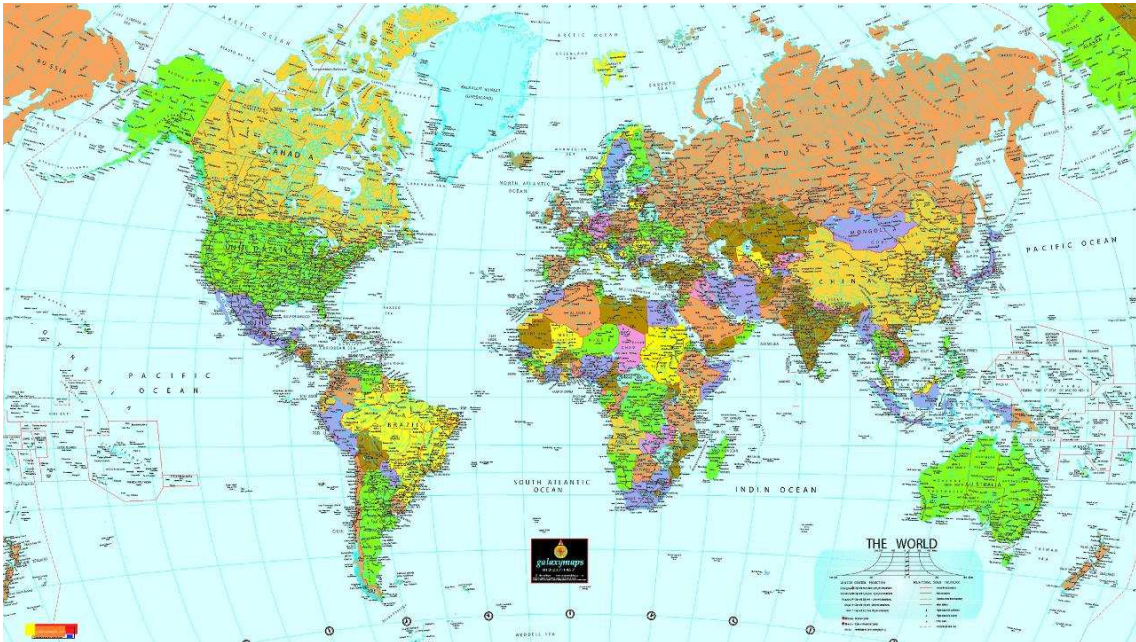


「国際政治」「外交政策」を、古典と新書で学ぼう!!



<古典>

・E・H・カー『危機の20年』岩波文庫

*国際政治学の古典。引用「(健全な政治姿勢には)リアリズムとユートピアニズムの融合が肝要である」。

・ハンス・モーゲンソー『国際政治』岩波文庫

*国際政治学の古典。引用「国際政治は、国内政治と同様に、権力闘争である」。

・高坂正堯『国際政治』中公新書

*国際政治学の古典。引用「国際政治とは、力の体系であり、利益の体系であり、価値の体系である」。

・武者小路公秀『国際政治を見る眼』岩波新書

*国際政治学の古典。引用「近代の国際システムは、西欧国家体系から米ソ冷戦体系へと転換した」。

・ヘドリー・ブル『国際社会論』岩波書店

*英国学派の金字塔。グロティウスの国際政治観を提示する。

・ハリー・ヒンズリー『権力と平和の模索』勁草書房

*国際政治学の古典。引用「権力と平和の問題は、大きな戦争の直後に、特に肝要になる」。

・ **ジョージ・F・ケナン『アメリカ外交 50 年』岩波現代文庫**

*アメリカ外交論の古典。著者は、トルーマン政権の国務省政策企画室初代室長。
引用「アメリカ外交は、法律家的・道徳家的なアプローチに陥りやすい」。

・ **ニコルソン『外交』東京大学出版会**

*外交についての古典。比較的、読みやすい。

<新書>

・ **石井修『国際政治史としての二〇世紀』有信堂**

*20 世紀のはじめての通史。米ソ冷戦史の権威による国際関係史。

※「ヨーロッパ政治外交論」のテキスト

・ **細谷雄一『外交』有斐閣**

*古典的外交についてのテキスト。イギリス外交史家による問題提起。外交とはどうあるべきかを問う。

・ **細谷雄一『国際秩序』中公新書**

*近代のヨーロッパから、21 世紀のアジアまでの国際秩序を論じる。国際秩序をいかに安定化させるかを問う。

・ **ヘンリー・キッシンジャー『外交』日本経済新聞社**

*19 世紀から 20 世紀の 2 世紀の外交の歴史を丹念に論じる。著者は、ニクソン政権の国家安全保障問題担当補佐官、国務長官を歴任した。

・ **滝田賢治ほか編『国際関係学』有信堂**

*最新の国際関係学のテキスト。資料が豊富で、便利である。

※「外交政策論Ⅰ」「国際関係論Ⅱ」のテキスト

・ **田中明彦、中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識 [新版]』有斐閣**

*国際政治経済についてのキーワード集。資格試験にも、便利である。

・ **石井修ほか編『現代アメリカ外交キーワード』有斐閣**

*現代アメリカ外交のキーワード集。100 項目ある。

・ **納家政嗣『国際紛争と予防外交』有斐閣**

*日本の安全保障研究の金字塔。国際秩序の在り方について問題提起する。

・ **村田晃嗣『現代アメリカ外交の変容』有斐閣**

*保守のアメリカ外交史家による学術書。レーガン政権からオバマ政権まで。

・ **西崎文子『アメリカ外交とは何か』岩波新書**

*リベラルなアメリカ外交史家による新書。建国から冷戦後まで。

島村ゼミナールのテキスト

・ **島村直幸「国際システムそのものを俯瞰する」馬田啓一ほか編『国際関係の論点』**

文真堂

・ **島村直幸「アメリカ外交」杉田米行編『アメリカを知るための 18 章』大学教育出版**